

(実践報告)

ワールドカフェを用いた成人看護学演習における学生の学び テキストマイニングによる分析から

北村真由美¹⁾ 武藤英理¹⁾ 岩崎淳子¹⁾ 堀 美保¹⁾ 小園千草¹⁾ 水谷裕子¹⁾

I. はじめに

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討委員会（文部科学省，2019）において，学生が看護師として高い実践力を習得していくには，各看護大学において，教育方法を検討していく必要があり，知識伝達型の授業形態から，ブレインストーミング，ロールプレイ，問題解決型学習（以下PBLとする），シミュレーション教育の導入等，アクティブラーニングへの積極的な転換を図るなどの工夫が必要であることが示されている．そのため，学生が受動的に学ぶ講義形式による授業だけではなく，学生が主体的に学び，学んだ知識を活用し新たな課題や状況に合わせた対応ができるよう，アクティブラーニングを取り入れた授業を工夫していくことも必要である．[社会人基礎力]として，前に踏み出す力，考え抜く力，チームで働く力の3つの能力，12要素が必要である（経済産業省，2006）．看護師を育成していく過程においてもこれらの能力・要素を身につけられるよう教育を行っていくことも重要であると考えられる．

今回，アクティブラーニングの授業の方法として，ワールドカフェを用いた授業展開を行った．ワールドカフェは，Juanita BrownとDavid Isaacsによって開発・提唱された手法であり，本人の意思による自主的な参加により，特定のテーマについてどのような思考を持っているのか，多くの他者との対話の中で考えを共有し，自らの思考に活かすことができる方法である．看護教育に活かす教育法として，反転授業，協同，学習，チーム基盤型学習（以下TBLとする），ディベート，シミュレーション教育，PBLがあり，その中の協同学習は，学習者同士の相互作用で，学習者が主体性を育てる方法として有効である（池西ら，2015）．今回，ワールドカフェを取り入れることで，個人だけの学修にとどまらず，グループ内のディスカッション，他のグループとの意見交流を図ることにより，視野を広げ知識を深める良い機会となった．ワールドカフェによる教育実践の効果について検討したのでここに報告する．

II. 科目の概要と到達目標

1. 科目の目的と概要

成人期における疾病の治療や援助に伴う看護技術の習得および健康障害によって生じる対象者の反応についてアセスメント能力と問題解決能力を習得することを目的とする．

慢性期の状態にある成人の身体的，心理的，社会的特徴や家族を含めた課題やニーズを理解し，日常生活の課題などについて，紙面上の事例を通して看護過程の展開を実施し，看護過程を通して複雑に絡み合った問題を論理的に解決に導くための方法を学ぶ．

課題解決に必要な情報収集，アセスメントと，看護計画の立案などの看護援助を学ぶ．

2. 到達目標

- 1) 患者を捉え，アセスメントすることができる
- 2) 問題の抽出の根拠を明確にし，看護問題につなげる
- 3) 看護計画を実践レベルで行えるよう記入することができる

1) 朝日大学保健医療学部看護学科（成人看護学講座）

Ⅲ. 成人看護学演習（慢性期）の展開

1. 成人看護学演習講義の流れ（表1）

2 コマ続きの演習を3回、最後の1コマを使用し学びの発表を行った。

表1 成人看護学演習 講義の流れ

Aグループ		Bグループ	
1	科目オリエンテーション		
2.3	データベースのアセスメントについて	事前学修をもとに事例の解釈	
4.5	看護問題の抽出について	手術直後患者の看護実践 (シミュレーション)	
6.7	看護計画について	術後離床の看護実践 (シミュレーション)	
8	グループ発表	グループ発表	
9.1	事前学修をもとに事例の解釈	データベースのアセスメントについて	
11.12	手術直後患者の看護実践 (シミュレーション)	看護問題の抽出について	
13.14	術後離床の看護実践 (シミュレーション)	看護計画について	
15	グループ発表	グループ発表	

2. 成人看護学演習（慢性期）の授業展開

1) オリエンテーション時に、紙上事例を提示し、次回の授業までに、疾患・病態等について事前学修を行い授業に臨むよう説明を行った。

2) ワールドカフェによる演習（図1）

5-6名の学生を1グループとし、1ユニット4グループ（前半2ユニット・8グループ、後半2ユニット・8グループ）に分け演習を行った。

成人看護学演習スケジュール → 各回のワールドカフェ進行スケジュール

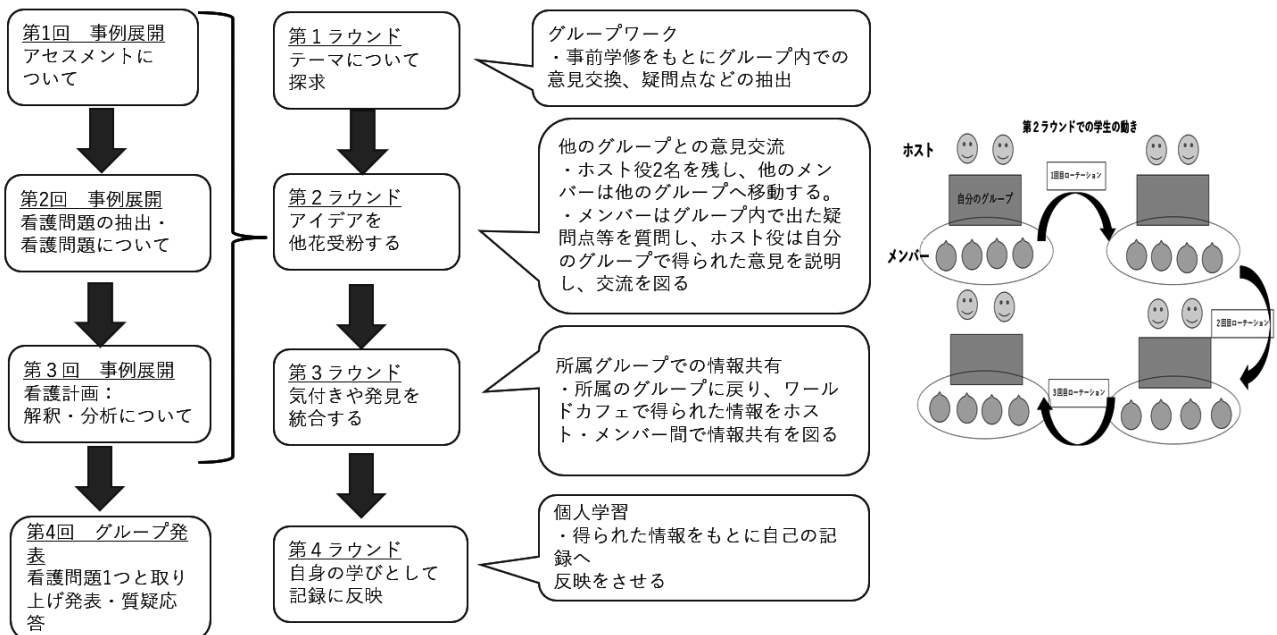


図1 成人看護学演習・ワールドカフェ進行スケジュール

(1) 第1ラウンド (60 分間) :

事前学修した自己ワークの記録をもとに、所属グループ内での意見交換を行い、グループで疑問に挙げた問題点、解釈の内容での不明な点等をラウンドノートに記載する。

(2) 第2ラウンド (20 分間×3ローテーション) :

メンバーはラウンドノートをもとに、他グループのホストに、質問や疑問点等を訊ね、ホスト役は、他のグループメンバーの質問に対し、自分のグループで話し合った結果を提供し、情報共有を図る。

(3) 第3ラウンド (30 分間) :

所属グループに戻り、メンバーは各グループから得られた情報をホスト役に還元し、グループ内での情報共有を図り、再度テーマについて検討を行う。

(4) 第4ラウンド (20 分間) :

第3ラウンドで得られた情報・学びをもとに自己の記録へ反映させる。

3) グループ発表 :

事例での学びの共有として、紙上事例の看護展開を行った中から、看護問題を1つ選択し、発表を行う。看護問題を抽出した根拠、解決するための目標と具体的な計画について発表を行う。発表後、質疑応答の時間を確保し学びを深める。

4) 各演習終了後、学習管理システムの Moodle を使用しリアクションペーパーを入力してもらった。

3. 紙上事例の概要

50代、女性 診断名：2型糖尿病、主訴：口渇・多飲・多尿・倦怠感

治療方針：合併症の精査と糖尿病教育

4. 対象者：成人看護学演習を受講した3年次の学生86名とした。

5. 分析方法：演習での学びを Moodle にリアクションペーパーを入力してもらった。

その結果を、ソフトウェア KH Coder を用いテキストマイニングツールによる内容分析を行った。それぞれの授業後に入力されたリアクションペーパーについての共起性を共起ネットワーク図で示した。円の大きさと出現回数の目安を右側に示した。

6. 倫理的配慮

学生には、全ての授業が終了し成績判定終了後に、目的について説明し、リアクションペーパーの使用の可否について学生の自由意思であること、個人名が特定されないこと、得られた内容は本学の紀要の投稿以外の目的で使用しないことを説明し、同意を得た。

IV. 結果

成人看護学演習を受講した3年次の学生86名のうち、同意が得られた86名のリアクションペーパー記載内容を分析した。得られた抽出語について「 」で示し、学生のリアクションペーパーの内容については『 』の斜字で示すこととする。

1. 基本情報におけるアセスメントについての結果

ネットワーク (図2) では6つのサブグラフが示された。出現頻度の多い抽出語を含む円の大きいものから「グループ」をとした「アセスメント」「自分」「考える」「情報」「意見」「聞く」のキーワードが含まれてつながり、共起関係がみられた。回答例を見ると、『グループワークや他の班の意見を聞き、足りなかった情報やアセスメントを補えたことや新たな気づきがあった』等の記述であり、自分の考えと、グループでの情

報交流・情報交換の実施を肯定的に捉えていることが明らかになった。またグループごとに抽出語のつながりをみていくと、「自分」に隣接して「ワークー質問ー考え」へとつながりがあり、「分析ー解釈」、「問題」が主軸となり「抽出」「看護ー過程」といった看護展開での振り返り、「患者」を主軸とした「必要」「感じる」といったテーマについての振り返りが明らかとなった。

2. 看護問題の抽出についての結果

ネットワーク（図3）では7つのサブグラフが示された。出現頻度の多い抽出語を含む円の大きいものから「問題」「グループ」を主軸とした「自分」に加え、第1回には見られなかった「話し合う」というキーワードが出現し共起性がみられた。回答例を見ると『看護問題の抽出についてグループワークで話し合い、個々の考えがそれぞれあってみんなの意見に付け足しながら話し合うことでそれぞれの意見を尊重した話し合いができた』等という記述であり、グループ内・グループ間での話し合いによる学びであった。今回は看護問題の抽出についての演習であり、「看護」を主軸とした「優先ー順位」の共起関係がみられた。「看護」から「必要ー介入」、「リスクー合併症」の共起関係があったが、「看護」からのつながりはやや遠い。また「不足」を主軸とした「知識」の不足、「自己」「管理」するの不足についての共起関係があり、自身の学習や知識に対する振り返りがみられた。

3. 看護計画についての結果

ネットワーク（図4）から9つのサブグラフが示された。「計画」「看護」を主軸とした抽出語では「患者」「必要」等のキーワードが含まれ、「考える」「行う」「学ぶ」「感じる」といった行動への共起関係がみられた。回答例を見ると『自分にはなかった視点や自分では思いつかなかった介入方法が仲間の意見から得られたことで、より患者にとって必要となる看護を見出すことができました』、『グループワークを行い、患者さんの生活スタイルや現在の状態、患者さんとご家族の希望に沿った看護計画を立案していくことがとても大切であることがわかった』等の記述であり、第1・2回に比べ「患者」「看護」がよ

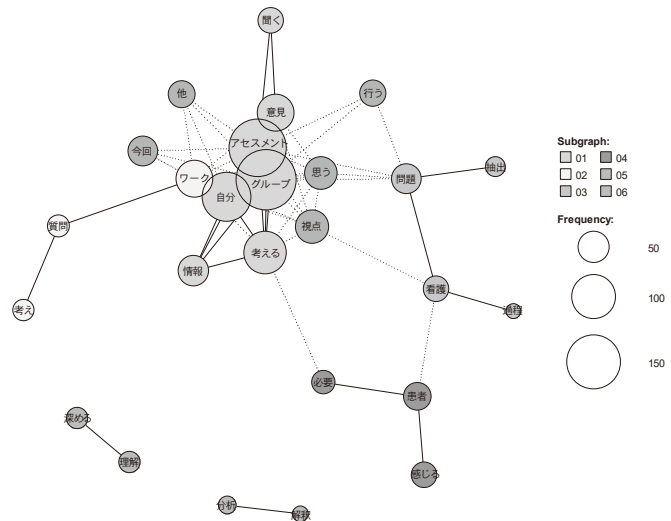


図2 基本情報についてのアセスメント後のネットワーク図

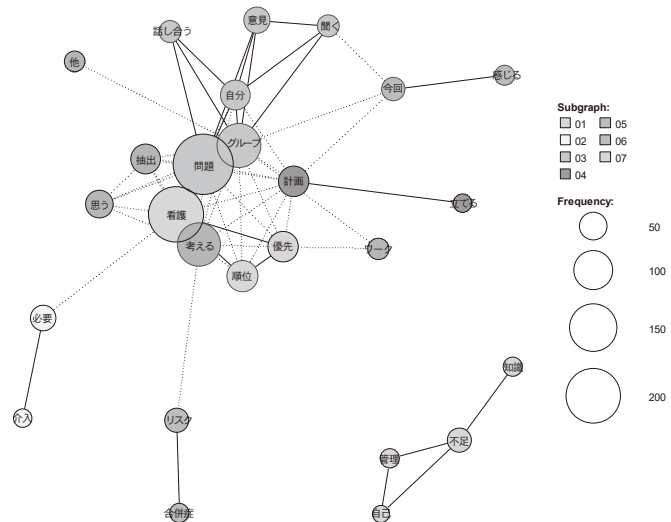


図3 看護問題抽出後のネットワーク図

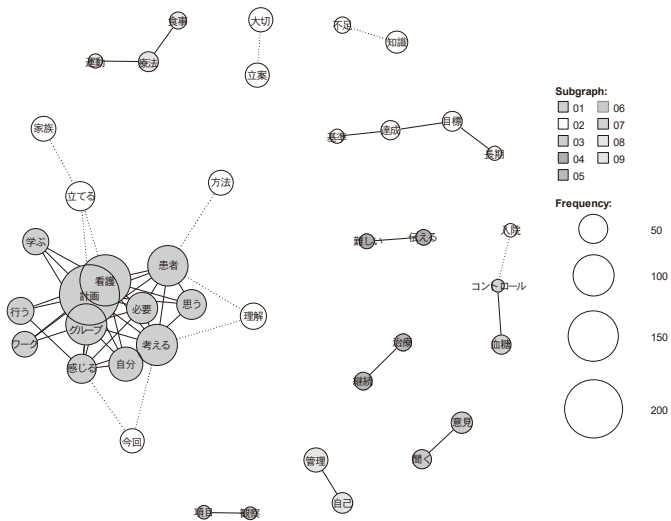


図4 看護計画後のネットワーク図

り密接し「家族」というキーワードが出現した。また抽出語のつながりを見ると、第2回に加え新たに「治療—継続」,「伝える—難しい」,「長期—目標—達成—基準」へと共起性が見られ、患者の問題に即した振り返りであった。

4. グループ発表後についての結果

ネットワーク(図5)では9つのサブグラフが示された。円の大きいものから「グループ」を中心とした「自分」「意見」の共起関係、「看護」を中心とした「発表—聞く—学ぶ」という共起関係がみられた。そして「患者」を主軸とした「必要—生活」,「退院」「家族」「大切」といった患者の生活に沿った振り返りがあった。また「計画」から「問題—根拠」といった根拠に基づいた計画の必要性に気付くことが振り返りの中から窺えた。回答例として『グループごとの看護問題とその根拠などを聞いて、同じ健康管理不足でも関連する要因が違ったり、家族の協力を得ることが必要だというグループもいたりして、多くの考えを知ることができた』等の記述であった。

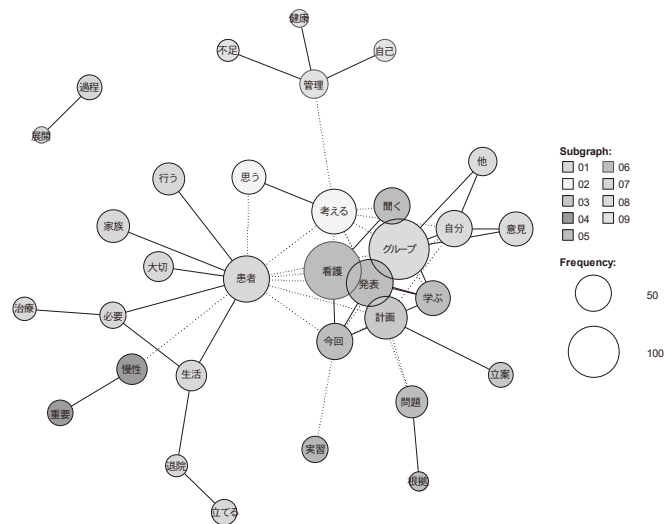


図5 グループ発表後のネットワーク図

V. 考察

成人看護学演習における学生の学びは、リアクションペーパーからの分析から、個人や所属グループだけの意見だけではなく、他のグループとの意見交流を図ることで視野が広がり、多角的な視点から学ぶことができていたと推察される。看護教育に活かすひとつの方法としての話し合い学習法(以下LTDとする)は、課題を自己学習し、学生間の対話によって課題の理解を深め、LTDを繰り返すことで協同の認識が向上することが言われている(安永, 2011)。今回、協同学習の方法のひとつとしてワールドカフェを用いることで、話し合いにより知識が深まったと同時に、他者の意見を尊重する等の対人関係の中で人と接する姿勢の在り方についても学びがみられた。また、演習を重ねることによって、学生が「患者」だけでなく、その「家族」に目を向け、患者の「生活」を捉え「治療」が「継続」できるという慢性期にある患者の看護展開を行う上での重要な視点について学ぶことができていた。学生は、段階を踏み看護展開を行うことで、「患者」を主軸とした、「家族」「生活—退院」という患者中心の看護問題・計画が必要であることに気付くことができていたことは、慢性期にある患者や家族を捉えた課題やニーズを理解するという科目の目標に沿った学びとなっていたと考えられる。

看護を実践するためには、複雑で流動的である看護現象を理解し、統合された形で習得することも重要であり、知識は講義形式で学ぶことはできるが、技術や態度は、繰り返し行う訓練や人と人との相互作用の体験から学ぶ必要がある(野崎ら, 2016)。ワールドカフェという学生間で忌憚なく意見交換できる場として積極的に意見交流が図れることで、学びが深まったと考えられる。しかし、演習の位置づけとして、臨地実習の前段階にあり、能動的に学ぶことや、自己の課題を見出し実習に繋がる学びを期待したが、振り返りからはほとんど見られなかった。今後、臨地実習を見据えた思考の整理や意識づけができるようさらなる授業の工夫が必要であると考えられる。

本稿における利益相反は存在しない。

V. 文献

文部科学省 (2019). 大学における看護系人材養成の充実に向けた保健師助産師看護師学校養成所指定規則の適用に関する課題と対応策. 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会.

https://www.mext.go.jp/content/20200114-mxt_igaku-00126_2.pdf. (参照 2021年12月30日)

樋口耕一 (2014). 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して. ナカニシヤ出版.

池西静江, 石束佳子 (2015). 看護教育へようこそ. 医学書院.

文部科学省 (2017). 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～.

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788_3.pdf. (参照 2021年12月20日)

野崎真奈美, 水戸優子, 渡辺かづみ (2016). 計画・実施・評価を循環させる授業設計. 医学書院. 12.

牛澤賢二 (2018). やってみようテキストマイニング. 朝倉書店.

安永 悟 (2011). 新しい教育方法の提案～学び合いの学習. JUCE Journal, 3, 2-7.